

London International Youth Science Forum

フィールドワークレポート

渡邊修

2011年2月14日



僕は、7月の28日から8月11日までの2週間の間LIYSFと呼ばれるStudent Forumに参加してきました。

LIYSFとは、ロンドンで50年前から毎年開かれている国際フォーラムで日本からは毎年東工大が代表生徒を出しています。参加している生徒の数はほぼ300人、50以上の国から集まる非常に大きな集会です。

連日、授業や、ディスカッション、外部施設の訪問を行います。

基本日程日程としては

朝飯8時 昼食12時 夕食7時

授業は通常9時から4時



驚いたことに実は運営は去年度のLIYSF参加者たちでした。参加者の枠は、16-21歳までとなっていますが

実際はその前半18歳以下が圧倒的に多く日本で言うと高校生の年代が多かったと聞きます。おかげで少し内容が堅苦しくなることはありませんでした。光る実験や、生物の話題、地球環境といったものから深い基礎知識などがなくてもひと通りわかるような内容が選ばれていました。

他の参加者たちは、どちらかという国からお金をもらっている人が多い印象。(sponsored by という表現をオープニングセレモニーで何度も聞きました)僕は参加を申し込む時からオープニングセレモニーをやってみたいと思っていたのでメールを送ってみました、返事はくじびきだということだったのですが、結局当日日本人グループは特にやりたがる人がいなかったので選ばれました。旗持ちをした生徒にはセ

レモニーのあと特別にパーティーがあり、みんなが寮に帰って初めの授業を待つ間フォーラムの責任者の人や、他の旗持ちをした生徒と話をする機会が与えられました。

授業

授業は大きく分けて大教室で300人まとめて受けるものと、小さな教室に分かれるものとありました。少々勉強していく語彙が不足していましたが、理解は出来ました。問題は授業後の質問時間にあり、1時間の授業の後30分は質問時間が取られていたのですが、時々非常に鋭い質問がされ、そうなるかと黙って聞いているしかありませんでした。



大きな目玉に課外授業があり、オックスフォードやケンブリッジの施設を見ることができました。僕は世界最古の博物館を観に行くコースになりました。自由時間も街中を歩くことができ、市内のほかの学部の建物を大まかに見てまわることができました。

イギリスで感心したのは、博物館の数、規模が大きく、さすがに初期の科学、工業を発展させただけあって、とても充実したものだったと思います。また、無料であることが殆どで、近くに住んでさえいれば、好きなだけ見ることができるという素晴らしいシステムでした。インペリアルカレッジもロンドンの中心にあるだけあり、歩いて数分の距離に有名な自然史博物館、科学博物館があり、授業後しばしばみにいきました。

文化交流イベント

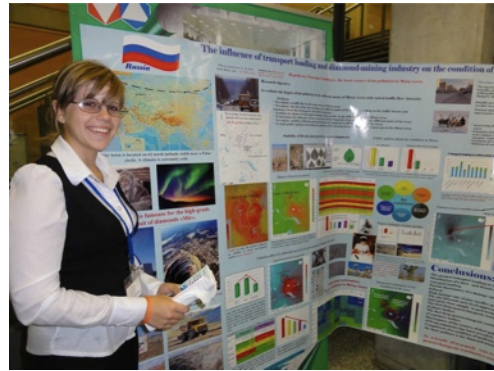
International cavalry 国別で、何かを披露する場が与えられました。多くの国はダンス、音楽などを発表しました。日本チームも7人いたので何か日本初の文化で有名な物をとということで考えた結果、スーパーマリオの劇と、ハーモニカの演奏をすることになりました。結果とても賑わい、顔を覚えてもらうことができたので劇の目的は果たせたと考えています。

もうひとつの交流イベントとして、カントリーソングと言って、伝統的もしくは当人が有名だと思う歌を歌うという時間がありました。これも実に多種多様な歌が聞け、言葉が理解できなかったのは非常に残念ですが、他の国、言語に対する興味のわくイベントでした。



研究発表

希望者はボードを与えられてそれぞれの研究を発表する時間がありました。去年の参加者から、発表をするように勧められていた。他の参加者たちは年下だからそこまで力を入れる必要はないとのことだったのですが。人によっては1年間くらいかけた研究出会ったり、それによって国で選ばれてきたような物ばかりだったので、とても驚きました。



文化

偶然にも泊まっているBait Hallはあの有名な世界最大のクラシック音楽祭BBC Promsの会場Royal Albert Hallの目の前でした。並べば5ポンドで入れるので、近いという機会を利用して出来る限り見に行きました。

オプションツアーというものがあり、ストーンヘンジ、ハンプトンコート/ウィンザー城、ミュージカルとしてウィキッド、シカゴが企画されていました。オプションですが、たいてい参加していました。初めてのミュージカルだったので、素晴らしい劇場とその音楽は、とても忘れられない経験になりました。

夏のロンドン是非常に長い日照時間があり。サマータイムとの重複で夜中10時くらいまでは明るいです。プログラムを見ると日のよっては夜中8時スタートのプログラムも含まれていました。明るいと言って休まないと非常に疲れる事になります。気候は、夏ですが朝は寒く、昼間はTシャツで快適に過ごせます。通常はいつも雨がふっているとのことですが幸運にも雨の日は少なく有効に時間を使うことができました。

気をつけていた事

昨年参加者の言う通りにしっかり日本人と固まって行動しない。ということを実行してきました。

まとめ

2週間という非常に短い期間であったので、そのなかで何を得るかということを考えることが非常に重要だった。参加者の数多く、その内容も多様であった。とはいえ、思い返してみると、参加者の文化は非常に似通っていたように思える、国の代表として選ばれるというフィルターを通して出てきた集団であったことが関係していると思います。参加者の中にも幾分か日本語を勉強し、結構話せる人もいたり、僕は北斎の絵を名刺に入れておいたのですが、その絵を知っていたり、日本は日本人が思っているほどに知られている国だということがわかりました。面白かったというのはもちろんですが、高校生にレベルの高い研究を見せられるという、とても刺激的な経験だったと思います。これからも連絡をとりあって情報交換をしていけたら実に心強い一生の財産となることを確信しています。

下は全体での集合写真



以上